







近頃民謡然が盛んになつて新聞雜誌にばつづく。新人のいわゆる文藝作家を見る様になつた事は私の様な民謡研究者にとつては實に嬉しい事である。熱心に植民文學が高唱され、現在の様な狀態では今

墓春

題宿「殺」「惱」

木蔭

秋の夜を

秋の夜を